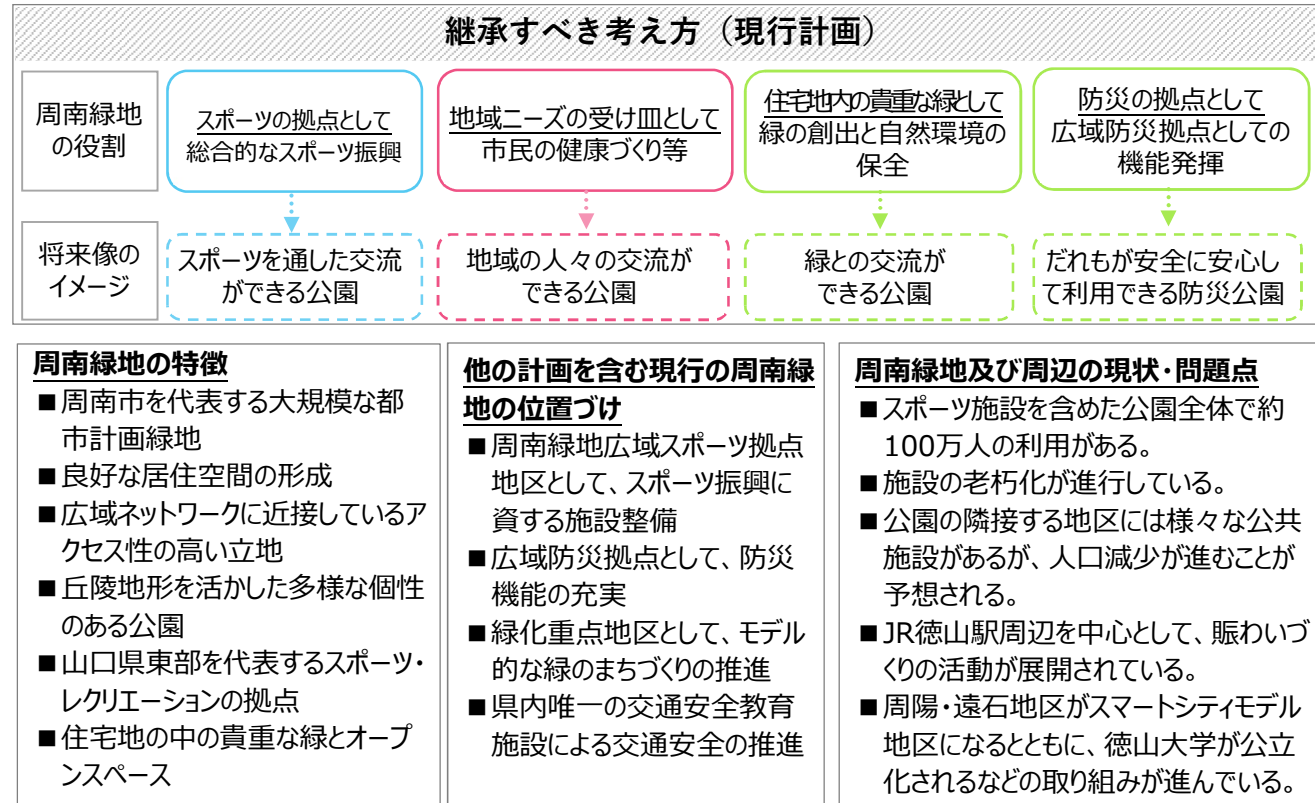


周南緑地基本計画改訂の経緯（概要版）と基本方針の変遷

1 社会情勢等の変化及び周南緑地を取り巻く課題

周南緑地の現況及び現行計画の考え方をふまえて、周南緑地をめぐる背景及び周南緑地へのニーズ等を勘案し、課題を整理します。



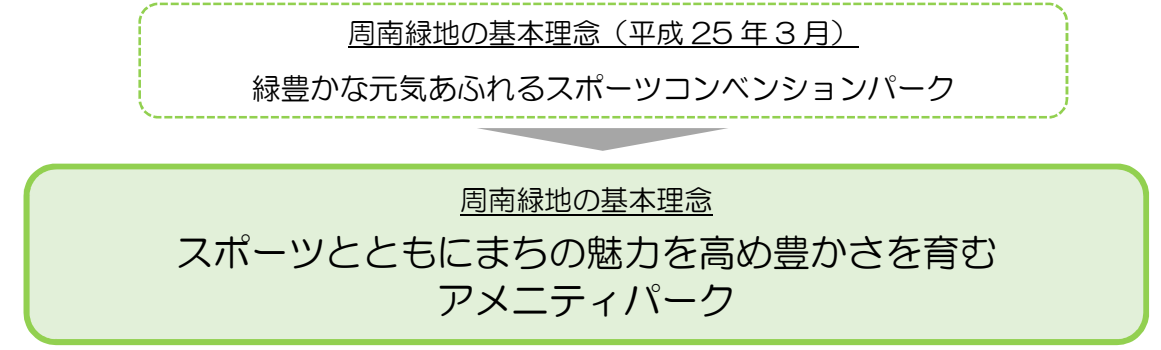
- これからの周南緑地に求められること**
- **社会情勢**
 - ・ 様々な災害リスクへの対応
 - ・ 新型コロナを契機とするニーズの受け皿
 - ・ SDGsへの貢献
 - ・ 脱炭素社会実現への貢献
 - **近年の公園緑地行政の動向**
 - ・ ストック効果の最大化
 - ・ 民との連携の加速化、より柔軟な活用
 - ・ グリーンインフラとしての多機能性の発揮
 - **市のまちづくり方針から、新たに求められること**
 - ・ シビックプライドの醸成
 - ・ 住みたい・訪れたいまち
 - ・ 時代のニーズに対応した新たな魅力づくり
 - ・ 周辺エリアを含む施策（中心市街地・スマートシティ・徳山大学公立化等）との連携

- 周南緑地へのニーズ**
- **周辺住民の利用ニーズ**
 - ・ スポーツの場としての期待はもちろんのこと「ゆっくり過ごせる」「誰もが利用しやすい」「子どもを安心して遊ばせられる」「自然の豊かさが感じられる」「健康づくりに役立つ」など、公園としての機能といった様々なニーズあり。
 - ・ 公園内での飲食ができるカフェやレストランやコンビニエンスストアへの期待が高い。
 - ・ 今後の管理運営に対しては、防犯性・安全性の向上が期待されている。
 - **地域関係団体等のニーズ**
 - ・ キャンプ、賑わい・集客、自然、文化・交流、健康・体力向上、交通安全教育など、様々なテーマでのイベントやプログラムの場としての活用意向がみられる。

- 周南緑地の課題**
- ◆ スポーツ交流の拠点としての充実
 - ◆ スポーツ以外のすそ野を広げ、健康、子育て、交流、コミュニティ、交通安全教育など多様なニーズへの柔軟な対応
 - ◆ まちと自然が調和し、安心してゆっくり滞在できる空間づくり・まちづくり
 - ◆ 防災・減災、環境保全など、SDGsへの貢献・脱炭素社会の実現に向けたグリーンインフラとしての機能強化
 - ◆ 周辺の事業や施設と連携し、エリアに波及する持続可能な公園の管理・運営

2 テーマ（将来像）

当初計画では、周南緑地の将来像を「緑豊かな元気あふれるスポーツコンベンションパーク」としていました。新たな計画では、これまでのスポーツを中心とした機能の推進に加え、周南緑地のストック効果をこれまで以上に多様な分野に活かすとともに、まちと調和し、住み続けたいまち・訪れたいまち、シビックプライドの醸成の実現に寄与することを目指し、以下の将来像を掲げます。



※アメニティ：心地よさ、快適性、快適に過ごすための環境が整備されている状態などをいいます。アメニティという言葉は、都市計画や街づくりにおける1つのあり方の提示や、住環境や建築においては、居住空間としての快適性からデザインの品質、設備・仕様の使い勝手、周辺環境の心地よさなどを意味します。

3 基本方針の変遷

